

介護ウェブ 2021 推進ニュース

■ 介護・認知症なんでも無料電話相談の結果について（速報値）

11月11日（木）「介護の日」に、全国を対象に認知症のひとと家族の会、中央社会保障推進協議会、東京社会保障推進協議会は共同で、「介護・認知症なんでも無料電話相談」を行いました。相談窓口を計23都道府県に設けて、全国で547件の相談を受け、昨年の2倍の件数になったことが中央社保協より報告がありました。コロナ禍で、施設での介護も在宅での家族による介護も、大変困難な状況が続き、やれる範囲で自己努力を行ってきたが『もう限界』、『なんとかして欲しい』、『まずは思いを受け止めてほしい』との悲痛な叫びが寄せられる介護相談となりました。

<相談内容（抜粋）>

- ・介護施設での面会はワクチン接種が条件となり、体質的な原因で接種出来ない家族に対して面会を許可しない、施設の所在する県外からの面会は許可しないなど、納得できない。
- ・久しぶりにタブレット越しで面会すると、印象が変わるほど痩せ細り、認知症が進んでいることが悩みである。
- ・一人での夫の介護に疲れた。うつ状態の精神状態です。この先、この介護はいつまで続くのか。
- ・コロナ感染予防のため、通いで家族の支援を受けることができない。
- ・8月の補足給付の制度改悪で、2万円以上の負担増になり、払えない、退所を考えざるを得ない。
- ・とにかく、一度話を聞いてもらいたかった。

■ 各地の取り組み

○ 介護ウェブの取り組みを実施（福島民医連）

浜通り医療生協



11月11日（木）の介護の日に合わせて、県内各法人院所でスタンディング等の宣伝行動を実施しました。小名浜生協病院前では14名でスタンディング行動を実施。会津医療生活協同組合ではスタンディング行動は初めての取り組みで、24名が参加し、メッセージボードを掲げました。



はなひらの
前での集
合写真

会津医療生協



福島ファルマ・プラン



← わたり病院前のスタンディングに丹治伸夫先生が激励に駆けつけてくださいました。↓



わたり病院前でのスタンディング

わたり病院での集合写真

はなひらの前でのスタンディング



福島医療生協とわたり福祉会、福島ファルマ・プラン、県連事務局合同で、朝はわたり病院前で 50 名が参加し、昼からはなひらの前でスタンディングを実施しました。郡山医療生協では署名行動に集中し、「介護保険制度の抜本的転換を求める請願署名」を 603 筆集めました。

○ 「介護・認知症なんでも無料電話相談」を実施（神奈川民医連）

11 月 11 日（木）、ケアマネジャー 2 名、SW1 名を配置して、「介護・認知症なんでも無料電話相談」に取り組み 42 名からの相談を受けました。介護疲れや認知症・介護の方法について、ケアマネジャーや病院の MSW に相談できない実態や、家族間・相続問題の相談がありました。



日頃からどこへ相談すればいいのか、どうしたらいいのかを悩んでいる方が大勢いることが浮き彫りになりました。



○ やすらぎ福祉会、特養待機者家族会が市へ要望交渉を実施（石川民医連）



11 月 18 日（木）、やすらぎ福祉会と特養ホーム入居待機者家族会の参加者 19 名は市に対して、介護保険制度の実態を訴え、改善を求める要望交渉を行いました。入居者家族から、入居時 4 万 5 千円だった利用料が 7 年で 2 倍になったことをあげ、「コロナ禍で利用料が上がっていることを当事者しか知らない。こんな社会であっていいのか、憤りを感じる」と訴え、吉池理事長は、「かつて特養の職員はお元気な入居者と生活をともにしながら、最後の看取りまで行う中

で、働き甲斐を感じていた。今は重度化で働き甲斐を見出すのはとても困難。介護労働と働き甲斐とはリンクする問題。ここをしっかりと受け止めて国へ要望して欲しい」と訴えました。

対応した福祉保健局長は「本日の声をとても重く受け止めた。介護保険の根本に関わる大きなテーマでもある。勉強して何ができるか考えたい」と答えました。



○ 署名、宣伝行動の取り組みを実施（山梨民医連）

11 月 11 日（木）、県連内の各事業所と介護現場で働く職員を中心に署名、宣伝行動などに取り組み、介護保険制度と介護職員の処遇改善を訴えました。甲府ブロックでは甲府駅前署名、リレートーク、宣伝ティッシュの配布を行い、59 名が参加、署名 97 筆が寄せられました。巨摩ブロックでもスタンディング、署名行動を行いました。合わせて、「介護・認知症なんでも無料電話相談」を実施しました。



○ 介護ウェブアピール行動を実施（京都民医連）

11月11日（木）、介護の日に各事業所で介護ウェブアピール行動に取り組みました。みんなが必要な介護サービスを受け、この地域で自分らしく暮らし続けられ、介護にかかわる職員も活き活きと働き生活できるように、保険料や利用料負担の引き上げではなく、国の負担を増やして介護をよくする声を上げました。



○ 「ケアプラン検証に関するヒアリングについて」市に申し入れ、「介護・認知症なんでも無料電話相談」を実施（大阪民医連）

10月よりケアプランを検証する仕組みが導入されています。サ高住など訪問介護を多く利用しているケアプランの狙い撃ち（サービス抑制）、必要なサービスが制限され、利用者・家族の人権侵害に関わる影響やケアマネジャー自身の専門性などの否定や人格否定にもつながる懸念があります。



11月11日（木）、「介護・認知症なんでも無料電話相談」を実施し、県連のケアマネジャーや社保協の方など計15名が参加し、電話相談に対応しました。認知症に関する事、介護利用料の負担の事、今後の介護に関する不安に関する事、家族の病状に関する事、生活に関する事などの問い合わせがありました。

1日で58件もの相談があり、改めて介護に関する不安や悩みを抱えている方が多いと実感しました。



○ 「介護・認知症なんでも無料電話相談」を実施（兵庫民医連）



11月11日（木）、「介護・認知症なんでも無料電話相談」を実施しました。県連、兵庫労連、福祉ネット星が丘から計9名が参加し、過去最多の21件の相談対応をしました。「85歳の夫が認知症でパーキンソン病がある。転倒して入院し、その後有料老人ホームが決まったが2-3か月で費用が限界になり出ることになった。老健施設の入所待ちをしている。男性が入る部屋が無いと言われる。施設を増やしてほしい」、「夫は認知症で妻（80歳代）は目が見えない。入浴

は一カ月入っていない。服も変えていない。リハビリは週一日入っている。痛風で歩けない。施設に入れるのか」など、切実な相談の対応をしています。

○ 補足給付の見直しアンケート結果報告（沖縄民医連）

10月31日にオンラインで開催された「介護ウェブの集い2021」にて、補足給付の見直しアンケート結果報告を行いました。9月に県内の特養と老健施設の計119か所にアンケートを実施し、28事業所から回答がありました。108名が補足給付の対象から外れ、食費や居住費が人によって月額7万円近い負担増になることがわかりました。入居者から「きょうだいで利用料を出し合ってやりくりしていたのに納得できない」、「見直し額があまりにも大きい」などの切実な声が寄せられています。



お問い合わせ先 介護ウェア推進本部

TEL: 03-5842-6451

E-mail: min-kaigo@min-iren.gr.jp

全日本民医連事務局: 高梨・瀧澤